

# 注書リスト



# DOKU-GAKU勝手にチョイス!!

## おくりびと

「こりゃ誤植だ。旅のお手伝いじゃなくて“安らかな旅立ちのお手伝い”だから、うちは」小林大悟が求人広告を手にNK エージェントを訪れると、社長の佐々木から思いもよらない業務内容を告げられた。NKは「納棺」—遺体を棺に納める仕事を、大悟は妻の美香に打ち明けられなかった。戸惑いながらも働きはじめた大悟は、佐々木の納棺師としての真摯な姿勢を目の当たりにする。さまざまな境遇の死や別れと向き合ううちに、この職業への矜持が大悟の心に芽生えていくのだが…。人の生と死をユーモアと感動で描き、笑って泣いたあとには大きな愛が胸に届く物語。(「BOOK」データベースより)



先日の朝日新聞では「なぜ他人の死を悼むのか」と題し、「おくりびと」と小説「悼む人」を並列に取り上げていました。

筆者はふたつの作品の共通点として「見ず知らずの他人の死を悼む」こととし、匿名化される死をについて語り、今の社会において「悼む」という行為が支持される現実は「希望」を喚起するからだとまとめています。「それが限りなく絶望と隣り合わせの希望であるとしても」と付け足しているのですが。

さて「悼む人」を既に読んでいるDOKU-GAKU会員たちの「おくりびと」の評価はどんなものなのでしょうか？

### TICA

『おくりびと』効果で納棺師を目指す若い人が増えているという。葬祭会社への就職希望ならわかるけれど、納棺師を目指すなんて映画でもつくんの所作に惹かれたとしか思えない安易な発想。女性のほうが遺体を物体として見るので続く割合が高いとのことで、そういえば父の死に化粧をしてくれたのも女の人でした。お化粧を施す人と、納棺夫の仕事が同じかはわからないけれど。……と、肝心な本のお話をせずにいるのは感想は一言で終わってしまうため^\_^;

実際の納棺夫になった著者の日記を編纂した『納棺夫日記』は「つまらなくて最後まで読めなかった」。ツッコミどころもない淡々としたつまらなさだった。

時代を今に設定した作り物の『おくりびと』の方が返ってリアリティがあり、つまらないながらも読めたが、こちらは引用が多く愚痴のような内容で、人に見せるつもりで書かれていない本当にただの<日記>。これを映画にしようと思ったもっくんは「納棺夫」という聞きなれない仕事に興味があっただけなのでは？

## Cacco

アカデミー賞を獲ったとニュースが流れ、「おくりびと」の情報がいろいろ入ってきても、あまり映画にも本にも興味は湧きませんでした。生意気な発言に聞こえるかもしれないけれど、案外想定内の作品に思えたから。しかし！DOKU-GAKUで勝手にチョイスしちゃった以上観なければ、読まなければ（笑）

まず百瀬しのぶさんのノベライズを読んでみました。ノベライズであるのだからもともと期待はしていなかったのですが、さらっとストーリーを追っていて、まあこんなもんかなといった印象。続いてモックくんが感動したという「納棺夫日記」を読みました。大切に立派な職業だとわかっているけれど、著者の感性がなぜかわたしには鼻につく。自分が自分が・っって人に見えてしまうのは、わたしのほうがそういうやつだからかもしれないけれど。特に第2章がいただけない。全部よそさまからの抜粋じゃん。どんないい言葉でもこれではあまり感動できない。読まずにすつとばさせていただきました。第1部は自分が仕事に就いた件など映画の原作になっている部分。でも確かここにも宮沢賢治の抜粋が・っ。そして最後に映画を観ました。映画が一番面白いのじゃないかと思ってはいたのですが・っ。まず主演の本木雅弘。かれのイメージが私の中になぜかしっかりあるのです。かれは雄弁で有能で自分の意志をしっかりと持ち発言できる人です。ダメなやつ大好きなわたしはなぜか本木くんから最初から抵抗があるのです。でもサントリーの伊衛門のCMは無口で穏やかでまじめなお茶職人にぴったりです。いつもの本木くと顔つきまで違うようで。だからかれはすごく演技力のあるひとなのだと思います。モックくんのイメージを乗り越えて作品世界に入り込めるかがわたしの場合はひとつのカギとなっていました。

で、そうね、モックくんよりまず、なぜあそこまで納棺夫が嫌われるのかあんまりピンとこなかったですね。広末涼子の「汚らわしい！」にはまいっちゃいました。いまどきああいうふうにいる人って少ないんじゃないですか？そんなこと言う前にあんなのスカート丈が短すぎるんだよ！と言いたくなるし、子供ができて簡単に戻ってくるなら大騒ぎして出てく意味もないと思いました。モックくんはといえば、あの入浴シーン好きじゃないですね。なにも横からあんなアングルで撮る必要あるんでしょうかね。ついモックくん好きだよなあ裸、と言いたくなってしまうんです。全然映画に感情移入できていませんね〜。ただ殺人事件の遺体、長い間発見されなかった遺体も警察官や監察医が納棺夫と一緒にきれいにするのは驚きました。あれはなかなかできないでしょう。

自分の父親が亡くなったときに、遺体をメイクアップしてくれる女性がきました（正式な名称は忘れてしまいましたが）。儀式的にはモックくんの仕事とよく似ていたと思います。わが父親は外人のように高い鼻がより高くなり、とっても美男子になりました。それ以来と

でも魅力的なお仕事だなあと思っておりましたので、見ず知らずの他人のご遺体をきれいにするという職業にあまり抵抗はなかったのが映画を楽しめない理由のひとつかもしれません。

思いつくまま書きましたが、感想はやっぱり想定内映画だったなあという感じです。しいてひとつよいシーンをあげれば母親を亡くした杉本哲太が火葬場で見送るシーンでしょうか。あ、それとわたしモックン好きでないですが「シコふんじゃった」って映画好きなんですよね。最後に「もうズルなんかしない」とかいうところがよくて。あとは全部忘れてるんであんまり信用できないかもですが。しかも「おくりびと」に全然関係ない・・・

## 健

前回のDGチョイス「悼む人」とテーマが若干かぶっているので気乗りしなかったが cacco さんより本とDVDを渡されてしまったので参加することにした。

まずは小説を読んでからDVDを観たが、本はほぼ忠実にノベライズしており報道で見せ場のカットを見ていたので特に違和感も無く読み終えた。映画はアカデミー賞外国映画賞を獲得したがストーリーより遺体の死化粧、死装束への着せ替えの所作、喪服のシーンに加えて昭和30年代を思わせる場面が日本的なものとして評価されたのではないかと思う。以前、伊丹十三が「お葬式」という映画を発表し厳粛な葬儀の中に垣間見られる関係者の戸惑い、滑稽な行動を丁寧に撮影して評判を呼び日本アカデミー賞を獲得した。「おくりびと」は葬儀社の仕事のうち納棺に関わる仕事に焦点を当てた作品。納棺師という独立した職業があるとは思わなかったのが改めて興味を持った人も多いのではないかと思う。自分の経験では映画のように大勢の親族の前で行うのは特殊のような気がする。葬儀社・遺族の事情もあるのだろうが遺体の処置はまちまちだ。葬儀社のスタッフが身内の目の触れないところで行うこともあればサポートに回り身内に委ねる場合もある。自分自身も死体を清める湯灌をしたことがあるが大家族時代には家族が普通にしていたことでもある。

死が古くから忌み嫌われるものであるため進んで職業に就くものは少ないと思われるがこの作品の肝はプロのチェロ弾きが納棺師としての職業意識に目覚める経緯、納棺の所作の美を撮るところにあると思う。作品の中では惨状な死体、納棺のHow Toビデオのシーンを撮ってさらに人に嫌がられる演出をしているが死がすべての人に訪れるものであれば必ずお世話になる職業であり、妻、友人の毛嫌いは大げさすぎるように思う。最近の実家で死を迎えることも少なくなり、遺体の処置は病院内で済んでしまうことも理由の一つかも知れない。映画は主人公より脇役陣の方が勝っていたが山崎努、本木雅弘の所作は確かに美しく気持ちがこもった演技ではあった。



次号DOKU-GAKUチョイスは東野圭吾著「**パラドックス13**」です。ガリレオシリーズの映画化など最近書けば売れる作家となっている東野圭吾。はたして本当に面白いのか？みなさんの感想お待ちしております。次号もよろしく！

## 001 健

No.	読書日 2009年	タイトル	著者 出版	表紙	コメント	評価
1	0320-0326	シートン(探偵) 動物記	柳公司 光文社文庫 600円		柳公司は従来ある小説の中にミステリーを組み込む名手。元になる作品・作家を知る読者には二重に楽しめる。この本もシートンの作品、略歴をうまく組み込みながら実際にシートンの行ったフィールドワークの中で起きた事件として組み込みそのエピソードを記者に提供する形にした連作短編。この手の作品の難点は事件のシチュエーションを面白く作ったものの謎解きがウンチク的になるところ。ウンチクそのものは興味深いが小説としての演出に欠けるところだ。	
2	0327-0327	おくりびと	百瀬しのぶ 小学館文庫 460円 (0円)		Caccoさんから回ってきた本。 感想はDGチョイスに投稿。	
3	0401-0407	ラットマン	道尾秀介 光文社 1,680円 (0円)		TIKAさんから借りた本。 題名はあるねずみの絵が動物の絵の中に並べるとねずみ(rat)に見え、人間の顔の中に並べると人(man)の顔に見えるという錯視のひとつに由来。ミュージシャン仲間の中で起きた殺人事件の各人の推理を象徴しそれぞれの思惑・事情が犯人の特定を惑わせる。どんでん返し の連続は買えるが真犯人の動機が馬鹿馬鹿しく最後でミソをつけた感じだ。	
4	0413-0414	ひでさん 松井秀喜ができたわけ	赤木ひろこ 講談社文庫 630円		イチローのように何か排他的な物言いに比べ腹藏なく語る松井に好感を持っているのでメジャーに行ってから成績に不満はあるが日本人メジャーが増えても一番応援している。そんな松井の子供時代からのインタビューをまとめたもので両親・兄弟、級友、チームメイトを通して人格形成と成長の過程が窺われる一冊。	
5	0418-0423	一茶	藤沢周平 文春文庫 610円		一茶が継子いじめに遭っていたという話は知っていたが一茶にもかなり非があるとは思っていなかった。この作品は一茶の眼を通して当時の俳界事情、俳諧師というものがどういものであるか悲哀感、挫折感など余さず一茶の一生が書かれていて認識を新たにした。	

6	0425-0502	パラドックス 13	東野圭吾 毎日出版社 1,785 円 (1,250 円)		一種のタイムスリップものだが内容は地震パニックものであり、サバイバルものと言った方が適切。ネタバレになるので詳しくは書かないが宇宙的に起きた 13 秒の時間のずれに取り残されたわずかな人々のサバイバルを通してそれぞれの人生・生き方を交え災害時のシミュレーションを行ったとも取れる作品。タネになる部分ラストに新味が無くたいしたことのない割には読ませるところはさすが。
7	0502-0503	ある道化師の 一日	永嶋慎二 小学館クリエイティブ 1,995 円		晩年はほとんど作品を発表していなかったが油絵や木版画などは行きつけの喫茶店などで個展を開いたり、即売などもしていたようだ。ピエロは氏が好んで描いたモチーフの一つ。内容は氏の奥さんが監修し、氏の日記・手紙・エッセイを中心とした遺稿集。改めて氏の仲間との交流、絵画としての魅力ある作品に触れもっと多くの作品を残して欲しかったと思う。
8	0504-0506	ぼくのマステリ 作法	赤川次郎 徳間文庫 600 円		初めて読んだ赤川作品は「上役のない月曜日」。会社員にとって何とも含みたっぷりのタイトルで以降もしばらくはタイトルに惹かれて読んでいた時期がある。多作家なのでさすがに飽きて別の作家に鞍替えしたが今でもそこそこ読める。その氏が明かす自作品の読みやすさの特徴、多作の秘訣、作風、苦勞する部分を正直に(と思う)語ったもの。
9	0508-0510	はるがいったら	集英社文庫 飛鳥井千砂 560 円		幼い頃に離婚した親にそれぞれについて行って離れ離れになった姉弟のライフスタイル・日常の出来事・交流を書いた本。「はる」は二人が子供の時に拾った飼犬の名前で今では老犬。つまらない訳ではなく若い人には受けるんだろうけど何でこんな本買っちゃったのかわからん。作品の中に老犬の介護シーンがリアルに描かれているのでペットを飼う人の生活ぶりが見えて面白い部分もある。
10	0513-0515	風天 渥美清のうた	天空出版 森英介 1,800 円		フーテンの寅さんこと渥美清は私生活をいっさい漏らさないことで有名だった。その渥美清が生前「風天」の俳号で句を作ったり、句会にも参加していたことを知った著者が作った句や周辺の人たちからの聞き取りで人間「渥美清」の知られざる部分に迫ろうとアプローチを企てた本。句は身近俳句であり小さな命にも眼を配っていたことがよくわかる。



## 004 TICA

湊かなえの「告白」が“本屋大賞を取らない”に1000点賭けたのに見事はずれでした。  
湊さん、ごめんなさい。新作「少女」より面白かったです。

題名	著者	コメント
毒殺魔の教室	塔山郁	<p>小学生の男子児童が、クラスメイトを教室内で毒殺し後に自殺した事件は多くの謎を残し幕を閉じた。それから30年後、ある人物が当時の事件関係者たちを訪ね歩き始めた。ところが、それぞれの証言や手紙などが語る事件の詳細は、微妙にズレている…。やがて、隠されていた悪意の存在が露わになり始め、思いもよらない事実と、驚愕の真実が明かされていく。『このミステリーがすごい!』大賞2009年、第7回優秀賞受賞作。</p> <p>証言者が次々と話をしていく形は『告白』を読んで間もないので食傷気味の感がありその点では割をくってる。</p> <p>インタビューの話し言葉が不自然で、小学生の話し方も老成しすぎ。中学生の設定にした方がまだよかった。途中で話の進め手が変わるのも、なぜ?って感じ。</p> <p>『このミス』に逆らうわけじゃないけど、“時間があつたら読めば”程度。</p>
少女	湊かなえ	<p>高2の夏休み前、由紀と敦子は転入生の紫織から衝撃的な話を聞く。彼女はかつて親友の自殺を目にしたというのだ。その告白に魅せられた二人の胸にある思いが浮かぶ——「人が死ぬ瞬間を見たい」。由紀は病院へボランティアに行き、重病の少年の死を、敦子は老人ホームで手伝いをし、入居者の死を目撃しようとする。</p> <p>なんといっても一番に、少女二人が交互に語るその書き分けがとてもわかりにくい!二番に、伏線を人の名前に頼りすぎ。いずれも読者に優しくない。前に出てきた名前を確認して、偶然がやたらと多い関係を理解するって感じ。少年の話は父親探しにつながるから必要があっても、少年同士の入れ替えはなんで必要なかわからない。人が死ぬ瞬間を見たいという話なら児童文学の『夏の庭』のほうが面白い。</p> <p>本屋大賞の「告白」といい、この人は悪意や読後感の悪さを信条にしているみたい。</p> <p>“時間があつても読まなくていい”</p>



<p>待ってる ~橘屋草紙</p>	<p>あさの あつこ</p>	<p>何かを待たずにいられないのが、人の世のならい。では、おふくが「待ってる」ものは—？12歳の春、おふくは、料理茶屋で奉公を始めた。少女の成長と人の絆を描く、涙あふれる連作短編集。</p> <p>『バッテリー』は読んでいないけど、児童文学のイメージだったので時代小説を書くななんて意外。もしかしたら『バッテリー』の方が温かみのある話なのかも。</p>
<p>うそうそ</p>	<p>畠中 恵</p>	<p>江戸の大店の若だんなは、身体が弱く寝込んでばかり。そんな若だんなを守っているのは、他人の目には見えぬ摩訶不思議な連中たち。病弱若だんなと妖怪たちが繰り広げる、痛快で人情味たっぷりの妖怪推理帖。</p> <p>単行本は重いのでベッド用、文庫は外用なのでシリーズの順番どおりに読んでいない。でもどこから読んでも話がわかるくらいのライトな時代小説。読み始めた時は大好きな宮部みゆきの『霊験お初』のようでわくわくしたが、やっぱり宮部みゆきを越さない。テレビ化していたのを読んだあとに知った。テゴマス・手越の若だんなは合うかなと思うけど、仁吉（谷原章介）や佐助（知らない人）のキャストにはがっかり。妖怪は写真で見た限りはイメージ通り。その妖怪も含め登場人物の性格づけは現代的。</p>
<p>ぬしさまへ</p>	<p>畠中 恵</p>	<p>若だんなシリーズ（しゃばけシリーズというのか？）の短編。こちらのほうが断然面白い。妖（あやかし）だけに人間の面倒くさい感情がなくてすっぱりものを言う感覚や若だんなを異常に大事にする手代がおかしい。他の妖たちも愛嬌があって甘党だったり酒宴をやらかしたりと人間ぽくて可愛いし、妖の立場もわきまえている。返って悪事をする人間の方が妖怪っぽい。</p>
<p>鬼の登音</p>	<p>道尾秀介</p>	<p>この世は完全犯罪だらけ。誰にも気付かれなければ、それは完全犯罪なんです。鈴虫だけが知っている、過去の完全犯罪。蝶に導かれて赴いた村で起きた猟奇殺人事件。連作短編集。</p> <p>ミステリーだと思っていたら、表紙やフォントや狐や鴉などの小道具がおどろおどろしい幻想ホラー小説。好みじゃありません。</p> <p>『ラットマン』もだめだめだったけど、まだもう少しこの人は読めます。図書館に予約しちやっただもん。</p>

せっかく取れたラーメンズの大阪公演。どーっしても痴呆気味の野原を置いて行く算段がつかず諦めた。頭の中で「ヤフオクで売れ」と悪魔が騒いだけど、そんなことしたら二度とチケットが当たらない気がして、正価で mixi のラーメンズコミュニティで譲渡しますと

書いた。殺到するだろうことは予測がついたので深夜1時過ぎに譲渡の書き込みをしたのに、あっちゅーまにメッセージがどんどん増えていった。結局大阪の人と埼玉の人に一枚ずつ譲渡した。そのうちの一人が違法コピーのDVD二枚と舞台でオークラがばら撒いたお札をオマケでつけてくれた。

チケットを譲って欲しい時には「オマケつけます」が殺し文句だと学習しました。

#### <DVD>

ファンの間では垂涎のお宝ビデオ。ファン歴の浅い私が、こんなに早くみられるとは思っていなかった。

#### ☆genico

ラーメンズとバナナマンによるコントユニット genico の2000年10月のステージ。

賢太郎の若くて痩せてた姿に驚くよりも、バナナマンの面白さに驚いた。台本次第ってことかな。

でも少なくとも、テレビで便利に使われているより舞台に出ているほうがいいってことはわかる。

↓変わらない設楽統と痩せてる賢太郎



#### ☆チョコレートハンター

#### THE FINAL HIGHTENTION BUS

ラーメンズとアルファルファと作家のオークラの5人のユニットの2000年12月の最後のライブ。

進行はうまくいかないし、賢太郎は噛むし、緻密なラーメンズには全く見られないぐだぐだのライブ。

チョコレートを食べている時期はもう終わり、僕たちはバスを降りようという言葉が最後に流れる。賢太郎がバスに乗っている時をリアルに見られなくて、ここでもまた私は乗り遅れてしまった。

↓賢太郎

↓ギリジン



客席に撒いたお札。

賢太郎が撒いたのだったらもっと嬉しかったのに。

